

2021.

12.26

14:00-17:30

real&online

# 嘱託医問題の解決を 目指すシンポジウム 「頑張れ 助産院 始動!!」

会場 &  
オンライン

TKP名古屋駅前カンファレンスセンター  
カンファレンスルーム6C

Zoom **ライブ** 配信  
& **録画** 配信あり!

参加費

**4,000円**(税込) 2021年12月14日までの**早割価格**

「自然なお産」に最も忠実なのは、開業助産師が行う自宅分娩や助産院分娩です。  
しかし助産院は今、死活問題に直面しています。それが「嘱託医問題」です。

本シンポジウムでは、助産院の「嘱託医問題」等の解決策を提示します。



シンポジウム  
特設サイト

さまざまな想いをもちながら、  
それでも妊婦さんと子どものために頑張る全国の助産院に、  
絶対に成功してもらいたいと思っています。  
皆さんの成功が日本中のお産を変え、子どもたちを幸せにすると信じて  
このシンポジウムを開催します。

詳細は  
裏面へ

### 現在のお産を取り巻く現状と 本シンポジウムの趣旨

SBSK 自然分娩推進協会代表  
(産婦人科医師) **荒堀 憲二**



SBSK自然分娩推進協会立ち上げと今回シンポジウム開催の趣旨をお話し致します。  
厚労省の課長通知によると「妊産婦新生児の安全のために、日頃から助産所、嘱託医、地域の病院間で情報共有と…緊密な連携体制に努められたい」とあります。つまり病院は助産院からの搬送を受けることが前提で通知されています。このシンポジウムを参考に地域ごとの解決策を実行しましょう。

### 助産師の活躍と医師のサポートが 未来の処方箋

奈良女子大学名誉教授 **松岡 悦子**



人類の歴史を振り返ると、女性が母となるのを助け、安全な出産へと導いてきたのは助産師や産婆です。そして未来の出産に期待されているのも助産師です。助産師と医師が対等なパートナーとなることがカギです。

### プライベート出産の実情からみる 助産院復興への期待

清泉女学院大学准教授 **市川 きみえ**



近年、無介助分娩が漸増傾向にあります。「プライベート出産(計画的に行われる無介助分娩)」選択の動機には助産院の衰退が影響しており、自然なお産を望む女性の安心安全な出産を保障するために助産院の復興が急がれます。

### 嘱託医問題の実情

一般社団法人日本助産所会  
代表理事 **澁谷 貴子**



嘱託医問題のために、各地で助産所の新規開設や維持存続が困難な実情をお伝え致します。また、助産所や自宅で分娩を希望する妊産婦が適切な産科医療を受けづらくなっている現状をお知らせ致します。

### 嘱託医の言いたいこと

一般社団法人日本助産所会  
嘱託医師 **中村 薫**



助産院の嘱託医を1次医療機関である産科診療所が担うリスクは、大き過ぎて、本来なら助産院との嘱託医契約は、難しい案件です。助産院を含む1次の医療機関が2次または、3次の医療機関への安全搬送を行う事ができるシステムの実現的運用が急務です。助産院を周産期地域医療の一員として、支える必要があります。

### 解決策 産む人の権利保護アクション

井上法律事務所 所長 **井上 清成**



産む人には、助産所で産むことを選択する権利があります。この産む人の権利を受けて、助産師は適切な助産所を開設・管理し、産婦人科・小児科の医師・医療機関は助産所の嘱託を受け、地域の公立病院は妊婦等の異状に対応する責務があります。

### 解決策

#### 妊婦は何を怖がっているのか？

信友ムラ代表  
(元 医療システム学講座教授) **信友 浩一**



医師の本質からみて現場の医師には、目の前に助けを求めて現れた人を『病人』とみなして診療する担当医と、病人ではなく『人』とみなして診察する主治医とがいるようです。人として寄り添われ、緊急時に医療が受けられる体制があれば、妊婦は怖がることもなく医療職との間には信頼関係が生まれ、苦情も紛争もなくなります。そうなると嘱託医制度は「必須」のものではなくなるのではないのでしょうか？

### Special Report & Speaker

その他、当事者からのお話を伺います。

- 病院と助産師会が協力してできた「静岡方式」
- お母さんの要望書  
町に要望書を提出したお母さんより

本シンポジウムへのお申し込み方法や  
詳細は、こちらの特設サイトをcheck!

【お問い合わせ】 SBSK自然分娩推進協会  
代表・荒堀憲二

